

基礎講座ニュース

第4回 安全と健康

日時 6月25日(木)

受講者 8名 考える会 2名

◎講座内容

ねらい：指導員は、子どもの安定した生活を保障するために、常に安全や衛生管理、事故やケガの対応など危機管理について理解しておく必要があります。

「子どもの安全・健康を守る」とはどういう意味なのか、安全対策や衛生管理、事故対応や危機管理について学びます。

◎安全を守るとは？

ケンカをしたら止めればいい・転んだら薬をぬればいい ➡ それだけでいいのか？

⇒子どもたちの遊びや生活を危険な事から守る

⇒子ども自身が安全と健康を守る力がつくように手助けする

◎『リスク』と『ハザード』

リスク ⇒ 管理しながら 管理 = 調節 (加減しながらみていく)

ハザード ⇒ 徹底して除去

◎「健康」を管理する

- ・子どもの体調を把握する
- ・おやつを一日の生活に位置付け、子どもたちがくつろぎ、落ち着いた雰囲気食べられるよう工夫する
- ・アレルギー、持病を持つ子どもを事前に把握。特別な配慮が必要なこともある
- ・ケガをした救急法などの知識や技術を学んでおくことが必要
- ・指導員が独自に診断して、あいまいに「大丈夫」など伝えない

◎受講者からの振り返りシートより(一部抜粋)

- ・義務化された安全計画の中で他の学童では、災害時には「靴はどうするか」まで訓練で把握させることや子どもたちを集めるために「うちわ」を使って視覚からの情報を入れる工夫など現場ですぐに活かせる具体的な危機管理の方法を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・私自身がおやつの注文をしていますので、これまで以上にアレルギーや栄養面を考えて、注文していきたいです。またおやつの時間での心とからだのリフレッシュのためにも色々なおやつを食べ、おしゃべりができる空間にしていきたいです。
- ・指導員が独自に判断してあいまいに「大丈夫」などと伝えない。は、心から「はい。」と思い、様子見を大切に、保護者に伝えたいと思いました。日頃、なんとなくで思う、感じていたのが少しながらわかって、勉強できてよかったです。
- ・特に印象に残ったのは、『リスク』と『ハザード』の違いです。ハザードは事故やケガにつながる危険要因そのものであり、リスクはその危険によって事故が起こる可能性や程度であることを知り、危険を全て無くすのではなく、危険を予測しながら子どもたちが安心して生活できる環境を整えることが大切だと学びました。

次回は、7月9日(木)に行われた、第5回の講座について、お伝えします。